

みんなが図書室の充実・活発な利用を!!

1980年度の図書委員会としては、予定通りオ3報まで発行することができました。学生諸君・教職員のご協力ありがとうございました。

オ3報は、学生の読書感想文を主体に発行しました。これらも読んで読書意欲を高めてもらいたいと思います。

ここで、図書委員会として今後の展望を書き記し、学生諸君の協力をお願いします。

一つは、この図書だよりも継続して発行し、できれば学生全員に配布できるように印刷を実現する。

もう一つは、学生の図書室利用の実態・読書傾向・希望図書を把握するためのアンケート調査も、学生会と協力して行う。その目的は、言うまでもなく図書室を充実し、図書利用を活発にすることです。

具体的には、来年度新しい再度からのアンケートを作成し、また、以前小池図書主任当時行なわれたアンケートを利用して、それと現在との比較、他高専で実施されたアンケートを使って他高専との比較を試みる。

以上のような、計画・展望実現に対し、幸い学生会も積極的であり、図書だよりへの学生の読書感想文・図書紹介、アンケート調査、希望図書の提出などに、学生諸君の積極的な協力を希望します。

『書籍なき家は主人なき家のごとし

(キケロ) 』

「阿部一族」

(森鷗外・新潮文庫)

3A 光宗明人

ぼくは、これを読み終えて、実にわかりやすく、また「殉死」というこの二字のなかに秘められた、さまざまな人々の誇りや悲しみなど、いろいろ考えさせられる作品だと思った。

殿様の後を追ひ、自殺するという行為、現代に生きるぼくたちにしてみれば、こんなばかげたことはない、と考える者がほとんどだと、ぼくは思う。

しかし、武家時代において、殉死をしないということは不忠不敬なのだ。すなわち、武士として不名誉なことだと考えていたのだ。

その時代の風習が、自分から進んで殉死を願うということも余儀なくさせたのだと思う。

殿様の生前にお許しを得て、静かに切腹していった内藤長十郎、愛犬とともにこの世を去っていった津崎五助長季、など殉死を願って許された人々は、ひとかけらの悔いも残さ

なかっただろう。

そして、殉死者にはそれぞれ、両親、妻、兄弟、家隸など多くの人々がいるだろうが、その人々は、心の奥深く悲しみを秘めて、殉死者を黙って見送る姿が、目に浮かぶようでもとても印象的であった。

しかし、当然殉死するものとして、誰もが疑わなかった家臣(阿部弥一右衛門)の切なる願いも殿様には受け入れられなかった。

殿様は、彼の言うことにいつも反対した。つまり虫が好まなかったのので、彼が殉死を願っても許さなかったのである。

しかし、理由はどうであれ、彼は生きていくしかなかったのである。

その彼に対する世間の評判は、彼も皮肉な眼で見て、許可のなかった



こともよいこととして生きる、卑怯な男だとしている。

昔も今も、そういうことを利用して、利益をはかろうとする俗悪な人間はいるものだが、そういう世間、彼は怒りを覚え、身の潔白さを示すために腹を切った。

しかし、この行爲もむだに終わった。

それは、その武士社会の中に、主君に殉ずるといふことを最高の道徳であると信じるという気質があったからではないだろうか。

吉田松陰と私

吉田松陰(山岡荘八著・学研)
など
ZE 高 義晴

松陰を知るきっかけは、僕が中一か中二の時NHKの大河ドラマ「花神」を見たことからである。主人公大村益次郎と共に深い感銘を受けたのが彼である。

さ、そく僕は 夏休みに図書室から、吉田松陰の伝記を貸りて読み、たしか感想文を書いた気がする。それには、「彼が、維新の志士としてこのように有名になったのは、小こ

い頃から、父と共に畑に出て、大空の下で論語などを読み勉強して、たいへんな親考行をしたからだろうというようなことを書いたような気がする。

それにしても彼は大変に思いやり深い人で、東北游学の際、脱落するき、かけとなったのが、友の安芸五蔵との約束を守るためであった。彼がおいの玉木彦介が元服の時に送った「士規七則」には、「一、凡そ生れて人たらば、宜しく人の禽獸に異なる所以を知るべし。蓋し人には五倫あり、而して君臣父子を最も大なりと為す。故に人の人たる所以は忠孝を本と為す。」という所がある。この中で五倫というのは、みなこんもご存知かもしれないが、儒教で、人の守るべき五つの道。即ち君臣の義、父子の親、夫婦の別、長幼の序、朋友の信をいう。このことから、彼は、友との約束を重んじるために藩から去ってゆくのである。

彼は又、二十一回孟子説をととえて、常に思想と行動が合致するように努めた。

彼の伝記でも、とも感銘深いのが、山岡荘八の吉田松陰であり、文章中に、ありありと彼の生きざまを窺見することができた。彼の、のこした言葉で「至誠にして動かざるものは未だこれあらざるなり」というのがある。彼が死刑の前に江戸に送られ獄に入れられるが、その時の彼の決心は、「自分は正しいことを主張しているのであり、真実をもって語ればわかってもらえるだろう。」というような内容で、彼のまわりにはいた人たちは実際、心を打たれていた。

しかし井伊大老は判決のところに朱で死刑と書きなおした。なんという運命だろう。このように多くの維新の志士は、維新成立の前後で死んでいる。彼らがこのように讃えられるのは、自分の「志」を死の直前までまっとうし、理想実現の為に生命を投げだすという熱意があるからだろう。

さて、山岡荘八の吉田松陰で、母、滝について多く初めの部分で述べられているけれど、女性としての本来の姿をここに見出したようである。

児玉家の養女として杉家に生命綱として送られた滝には大きな期待が寄せられた。彼女はそれにこたえて、除々に杉家の雰囲気を知りあひあひとさせた。彼女はよく働いた。ある日急に日風を(当時一般の家では毎日風をたかなかた)を思いたち、夫の百合之助に願い出て、それをするまでに至った。それからというもの、病床の百合之助の母ともうちとけた気持になれた。この所をよんで僕は、「大知おみな」姿はこういうものなんだなと実感した。夫の堅い心も彼女の太陽のような明るさでやわらかくほぐされ、彼女の内助の功に大きくささえられたのである。

最後になつたが、彼が死ぬ前に書いた留魂録のはじめに「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留おかまひ大知魂」という和歌がある。

彼は、山鹿流の兵学の師範であつたことから、赤穂浪士、楠木正成公などにあこがれていたのだろう。

このように「留魂」の思想が日本人の奥底に存在するのである。肉体は死んでも魂は死なず。志は自分

が死んでも必ずや継承されるものな
んだ。今日本は維新の時より一層さ
びしい状況におかれている。そんな
時 彼に学ぶものは多い。

ぜひ一読を-----!!。

至誠而不動者
未之有也

松陰先生



「国土の変貌と水害」

について

高橋裕著・岩波新書

5A 松山 千秋

今までに 河川について、水害に
ついて、考えた事はありませんでし
た。水害日本と呼ばれる所に住んで
いながら、恥しいことでもあります。

というのも 私自身が、大きな水
害に遭ってないからかもしれません。

過去において、記載されているほ
どの多数の水害が、あったことには、
驚きました。そして、水害は、自然
の災害だけではなく、人の手による
公害とも言える水害が、最近では、
増ってきていることが、わかりまし
た。地下水の、くみ上げすぎによる
地盤地下、川辺の危険な場所の市街
化など、いろいろな事が 複雑にか
かり合っ、大きな災害へとっな
がっているのです。

又、その災害を防止する方法とし
て、堤防を築けばいいという考えが
間違っていることがわかりました。

川をまっすぐに、排水路の整備を
することが、正しいわけではないこ

とも。昔は遊水地があり、あふれても災害を最少にすることができていたのです。極度に人工河川化するのではなく、自然な川が最善だということが強く感じられました。しかし、それにもかかわらず、今でも人工化はさらに進んで来ています。先日、新聞には、海岸線の人工化が50%以上になったことが載っていました。

堤防を築く他に、ダムを造ることも防土策としてあげられています。それにも海岸侵食など色々問題があります。

その他、水害だけではなく、他の災害にもつながる、危険な都市化についても述べられていましたが、地下街の事もちゃんと書かれてあったのです。この夏、10数人もの死者を出した、静岡の地下街は、ガス爆発によるものでしたが、それでも、地下の恐しさは、予期はこれでした。

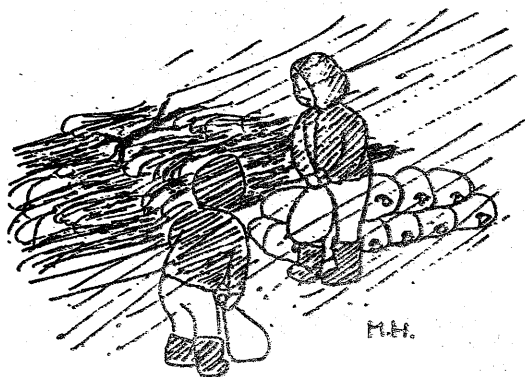
"災害は、来た頃にやってくる" というフレーズがありますが、その事が具体的に納得したのは、洪水や、地震などは、毎年一度、何十年に

一度しかこないために、その恐ろしさを皆忘れてしまい、そして、どんどん市街化が進み、その土地を知らない人々が、住みついているのに気がついたことです。

そうした住居の移動は、災害における被害者を増やすことにもつながっているのです。

都市計画は、その土地の住居のくらしが、より経済的に、よりくらしよくすることが目的だと思いますが、災害における危険性を決して見落してはならないことが、わかりました。

そして治水計画たるものも、一部分の修理だけでなく全体の調和、かわり合いなどを考慮していかなくてはいいませんが、都市計画がいか



「IBMの挑戦」を読んで

(北正満・共立出版)

4E 小林 建三

IBMといえば、最近、新聞を賑した宇宙探査機ボイジャー1号を土星に送り込んだアメリカ宇宙国防計画の自動制御、追跡支援陣の主役を演じ、戦時中は暗号解読機を開発したコンピュータ企業で、連邦政府と結びついている多国籍企業の大きな影が浮かび上がるでしょう。この本の醍醐味は、いかにこれ程の大企業に成長したか、その勝因についてである。その秘訣の一端は社心(ワイルドダック)にも表われている。ワイルドダックとは「エサをもらい飼いはじめた野鴨はもう形が意欲を失い飛べなくなってしまう。逞しく荒々しい野鴨こそ望ましい。」という意味です。社員に高い報酬を与えるとともに厳しい前進を望む考え方で「アメとムチ」を巧みに、使い分けることです。毎日社員は夜12時過ぎになっても新開発の必読書を抱え、更に内部機密の完全厳守が要求される。

そのくせ、パネルライボックスやゴールデンプレゼント等のアメもある。前者はセールスマンが販売ノルマを達成できなかった時や、やり過ぎて失敗した時に頭を冷やすように休養を与える制度であり、後者は売上げが成績が最も良い人に、スイス等への家族旅行をプレゼントする制度です。

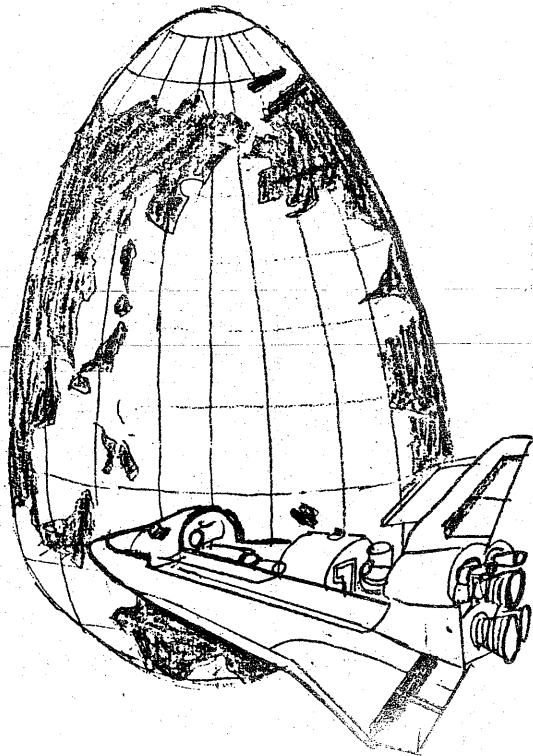
更に列挙してみると、全世界に広大な研究施設を持ち、常に技術優先政策を取っていること。超一流の海外子会社の株式を100%所有し、完全統率に成功している実態があらわれます。

こうして、50年の間に拾頭して来たIBMは、ライバル会社のGE, RCAを追いやり、コンピュータ産業界でほぼ独占的地位を確立した。そして更に、90年代には、進出後10年以内に5~10億ドルとなる高収益事業である電話中央交換システムを狙い、近く機械に話しかければ電子郵便が可能な時代を保証しようとしている。

ここまで書けば「このためにすら利潤

追求する組織の解体書が我々学生の及ばない種々の発想と価値感を与えてくれることがわかるでしょう。今後、会社に入り、あるポジションについて意見を求められる時にIBMの企業間の掛け引き、カリスマ的経営を知っておくことは役に立つと思います。

又、この本は伝記の様にすばらしい人物を紹介してくれる。全てオノ級を好む創始者、平衡感覚に鋭いカリスマ的経営者のエッセ、精力絶倫のタフガイたちの生き様は現実的な刺



激と教訓を与えてくれる。コンピュータ時代をリードする会社の内幕を知り、企業という怪物に食い殺される前に、企業を食って成長するアメリカの多国籍企業のトップの生き様を習得してもらいたい。

この本と類似した「マツダの挑戦」等の企業紹介書を未来の社員に推薦します。

「広島県の歴史的町並」

「広島」全二巻

(佐藤重夫他著、講談社)

学校長 佐藤 重夫

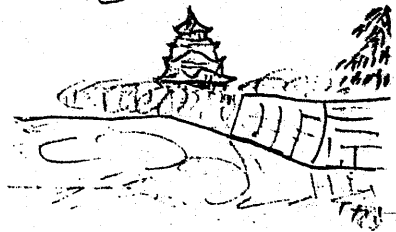
近時町並が社会より注目されるようになり、殊に文化の向上とともに社会生活環境としての町並が歴史的にも美意識のうえでも、また都市計画や民俗学的考察のうえからも研究されて、見直されてきつつある。標記の拙稿を自分で紹介するのはいささか気がひけるが、求められたので梗概を述べよう。

先づ町並の発生過程の概要を述べ

ているが、それはハレヒケの二つの
われわれの生活内容が家屋にも町並
にもあり、それらが程よく複雑に絡
みあってできているのがわれわれの
町並である。とりしていろいろの核
になるものを元にしてできる町並だ
そうでもないものもあるが、日常生活
と経済社会生活とが程よく溶り合っ
ていることが解る。とりして原因
の説明を頭において町並を考えるこ
とを述べてみたものである。もちろ
ん、そこには思いのほか古くより文
化の香りが時々刻々に織り込まれて
おり、中央からの高い文化の影響の
強いことがめえている。伝統的のも
のが強く残るとともにそれぞれの地
の特徴もよく見えて、それは近隣の
競いあいにあり、いっそうそれぞれの
町並の特徴になってゆく。

広島県下にも数多くの古い町並が
あるが、例として特に東城、三次、
三原、竹原、宮島をとりあげて解説
し、その他のものに言及するゆとり
がなかったが、古い町並には文化度
が色々時代に応じていることを述
べて、将来の生活文化を築く資を示

唆することも著さずえた。年ととも
に、親しまれた古い町並も、その維
持には困難が伴うが、地域住民の
生活の中に文化の香りがただよりよ
りにしながら、地域生活をよりよく
打立てるためには、環境保全はもと
より、より蘇生計画をもって、伝統
の良きものを保存活用する理念を何
らかにたてる資料として町並は大切
である。歴史的町並の意義もその理
念のために大切である。



「若干の話題になった図書」

図書主任 高城 博昭

まず、ゲストセラーにいられる
「私のアラブ・私の日本」(U・D・
カーン・ユスフガイ著、CBSソニ
ー出版)の著者は、日本人の奥さん、
子供三人と横浜に在住するイランの

代表的新聞社の在日特派員です。アメリカ大使館員人質事件、イラクとの戦争などでゆれろぐ産油国イランを中心に、中東のアラブの心と行動を理解する本の一つでしょう。日本人の間では、友人や知り合いの奥さんをほめることはごくあたりまえの習慣であるが、アラブではこれは禁句である。これがビジネスの成功、不成功に結びつくなど、日本の常識はアラブの非常識とされること、中東で日本企業が失敗するわけ、新聞にでない中東政治の背景など、平易に興味深く読める本です。

「ソビエト帝国の崩壊」(小室直樹著、光文社)もベストセラーになっている。2月7日を「北方領土の日」とすることをきめた日本の現状のなかで、ソビエト理解の一つとしてあげられよう。

郷土関係のものとして「各駅停車 広島県」(中国新聞社編、河出書房新社)は、県内国鉄沿線の各駅ごとに平易に書かれている。また、「リュックかっいで・広島山歩き」(中国新聞社)は、地図入りで県内の

登山案内をしている。身近かにあっても、未知の興味をそそるものが発見されます。

次に、原水爆・平和関係のものとして、次元が高いかも知れませんが、開校以来図書館におかれている雑誌「世界」(1981年1月号)の論文を紹介します。「核兵器をめぐる80年代の危機」(P.80~94)の著者は、名古屋大学の物理学の教授です。そのなかで、湯川メッセージなどをあげ、一人の自然科学者としてというより、むしろ一人の人間として読者に憂慮を伝えようとしている。高学年の学生には是非読んでもらいたいと思います。

おわりに、前報で読書をすすめる一つの目安として、新潮文庫50冊の本をあげたが、そのなかの「楢山節考」(深沢七郎)は、才ノ回中央公論新人賞の当選作です。

お姥捨てるか裏山へ

衰じや蟹でも這って来る

雪の楢山へ欣然と死に赴く老母おらんを、孝行息子辰平は胸のほりさける思いで背板に乗せて捨てにゆく。

残酷であってもそれは貧しい部落の掟なのだ。一因習に閉ざされた乗老伝説を、近代的な小説にまで昇華させた。残酷な行動と、それとまったく背馳した肉身間の美しい愛情とが奇妙にないまぜられている。

高冷北社会への対応が問題になっている日本など、現代の福祉国家（景気変動や社会的な不平等に対し責任をもつ）のなかで読んでおきたい本にあがらぬよう。



個人的なものをだして恐縮であるが、私は深沢七郎は好きな作家です。多くの方は異色作家というが、授業でも話した彼の「東北の神武たち」（新潮文庫）、また、魯迅の「阿Q正伝」（岩波文庫）など読んでみてはどうですか。きっとなにかあるものがあるでしょう。

「学生時代の読書」

図書委員 兼本富夫

私の学生時代の読書の方法が、学生諸君に参考になればと思い紹介します。

高校生、予備校の頃は、受験勉強中に触れた抜粋の、古典・英文も大学に入ったら全文を読んでみたいと感じた位で、小説類も読んだのは、石原掇太郎の本等であった。

希望も胸一杯に上京し、最初の下宿での私の歓迎会で、外語大の四年生の方が「学生は、どんな本でもよければ2日に1冊、少なくとも1週間に2冊は読め」と言われた言葉に感銘をうけてそれを実行しようと思った。

その下宿に半年間いたが、手当たり次第に本を読んだ。大学の授業を除き、1日6〜7時間は読書に費した。本代が少ないので、友人の本、貸本屋の本、古本屋の本等を利用した。哲学書、出世物語、小説、時にはエロ本も。概して、外語大の先輩の言うノルマを果たしていた。

1年の秋に学生寮（400人位）

に入寮した。寮生の中で、約1割位
の人が相当な蔵書も有しており互倒
された。自分の蔵書印も有する人す
らいた。そこで私もせっせと本を蓄
え始めた。気に入る本は、すぐには
読めなくても買った。同じ全集もの
でも装丁・紙質・印刷の良悪がある
ことも知った。友人の中には羊皮紙
の詩集を買って自慢する人もいた。

私は、受験で苦しめられたS・モ
ームの「人間の絆」が気に入って
ました。筑摩書房出版で、絵もよく、
表紙にゴッヤンの絵が載っていた
(この本は後にその当時の恋人にプ
レゼントした。キザ!!)。とにかく、
神田や、高田の馬場の古本屋によく
行った。その頃は、小説類ではイギ
リス、ドイツの本を読んでいたが、
雑誌「世界」も読み始めた。「世界」
に書いてあることが理解できず、大
学もよくサボっていたので社会科学
系の本も読み始めた。

寮では2人1部屋であったが、相
棒がマージャン等で部屋にのこりの
で1日6〜10時間使も読書に費し
た。H・ハッセ、S・モーム等が記

憶に残っている。

2年生になり、ロシア小説もと思
ったが、トルストイの「復活」は2
か月も要した。難しい本の場合、気
の向いた時にと、別の本と並行しな
がら読んだ。以後ロシア小説も努力
したが、ドストエフスキーは別とし
て、トルストイは未だに苦手である。
他に、ロマン・ローラン、トマス・
マン等も苦手である。

当時の私には、本を読まぬはとい
う気持は、強迫観念に近いものであ
ったように思う。本屋に行って自分
の読んだ本の少なさに、あせりを感
じたことが度々あった。

自分には読みづらい作家があるこ
とを知り始めた頃、早大法学部の学
生の間で、実存主義哲学のブームが
起こり、その文学的指導書「アウト
サイダー」(コリン・ウィルソン)
が必読書とされていた。私もその影
響でか、又精神的体質が合致してい
たのか、C・ウィルソンが紹介する
本に集中し始めた。アンリ・バルビュ
ス、アルヴァール・カミュ、サルトル、
T E・ロレンス(アラビアのロレン

スで有名)等に興味を感じた。手に入りにくい本もあり、古本・全集の一部、文庫本等で不統一ながら同じ作家の本を集中して読むようにしていた。内容が理解できずに放棄したケースもあったが。以後、色々な本に触れて、気になる作家がいれば、その作家の人生観が理解できるまでは続けて読むようになったと思う。

1日に何冊も読み、それでも納得がいかなければ夜の9時でも、早朝7時頃からでもその作家の本を買って求めるクセが付き現在も続いている。1週向佐ブツ続けた読んだ作家を掲げると、ハッセ、モーレ、アルベルト・モラビア、グレアム・グリーン、カミュ、三島由紀夫、立原正秋、司馬遼太郎、等が記憶にある。新刊書で読みたい本があり、金がなければ古本屋に本を売ってその本を手に入れたことも度々であった。

以上、私の経験からすれば、その時期の精神状態、人生観、世界観により、本に求めるものが違うので、読みにくい本を無理して読む必要はなく、心にグングン迫ってくる本も

読めばよいと思う。そのため文学全集等は諸君が求めている人生観、価値観を有する作家を捜す手引書の様なものだと思う。古典もよいけど現代小説もよい、文芸雑誌、通俗小説を卑下することはない。

気になる作家の本を集中して読めば、作家の人生観の変化、文章能力の向上、低下も知ることとなり有意義に思う。

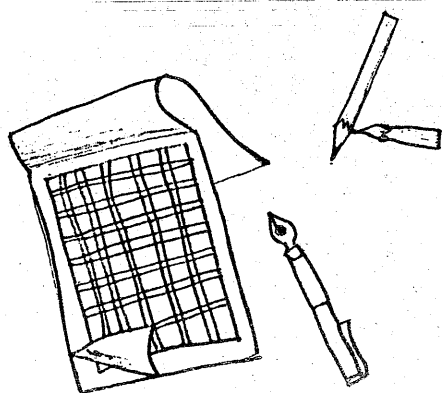
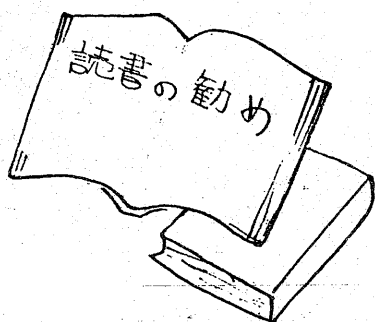
本は心の友であり、恋愛中には恋愛物を読めば人生はバラ色になり、上手なラブレター、くどき文句も本から借用できよう。失恋したり、人生に絶望するときは、人生論、悲恋物を読むといった様に、本は、私にとってカウンセラーの役目を果しているように思う。

最近にかけての青年期の「あせり」がなくなり、やや墜落気味であるが、女房の好きな推理小説に目を適すことが多い。推理小説もなかなかのもので。今気に入っているのが、エド・マクベイン。離婚問題に少し興味があることから、文化人類学、精神分析関係の本も部外者ながら読

むのも楽しいものだ。最近一番感銘
もつけた本は、「宣告」(加賀乙彦)。
ボツボツ、シェクスピア全集、ギリ
シア悲劇を読んでみようかなと思っ
ています。

悩み多き学生諸君、君等自身のカ
ウンセラーとなるような作家も早く
見つけるために手当たり次第に本を読
みましょう!!

“「2日に1冊、少なくとも1週
間に2冊」”



編集後記

今回で「図書だより」も 当初予
定しておりました年3回発行するこ
とが出来ました。

原稿集めが、順調に進んだとは言
えませんが、今回は特に 学生会の
協力がありましたことを書きそえて
おきます。

今後とも、この「図書だより」が
広く校内の皆さんに読まれ、図書館
利用の一助になる様に企画内容を考
えていきたいので、投稿を持ってお
ります。

ここで、図書館利用について気の
ついたことを一言、現在 図書館で
は、利用者が閲覧しやすい様に、ほ
とんどの本が南架となっており、分
類法にそって配列されていますが、
特に利用頻度の多い所は、本が乱雑
に扱われている様に見えます。後か
る本を さがす人のことも考え、又
本を大切に扱う意味からも 書架か
ら出した本は ちゃんと元の位置に
返すように一人一人が心掛ける様
をお願いします。

(岡本記)

新着図書速報

図書係

- 0 総記 (情報科学、コンピュータ、ソフトウェア、百科事典 等)
- | | | |
|--------------------------|--------------------------|-----------|
| マイクロコンピュータ-ソフトウェア基礎技術 | 横井敏郎 | ラジオ技術社 |
| フランス-情報と技術といた未来社会への挑戦 | ノラ, S | 産業能率大学出版部 |
| 実用マイクロコンピュータ 改訂 | 杉田 稔 | テックノ |
| 情報の科学と計装 | 宮崎誠一 | 工業技術社 |
| サイエンス・マクドナルド・コンピュータ・シリーズ | | サイエンス社 |
| 3: コンパイルの技法 | | |
| 4: 自動構文解析 | | |
| マイクロコンピュータによるBASIC | 古賀義志 | 工学図書 |
| 図書館史要説 | アール・シュテイクス, J. ヨースト, (英) | 日外アソシエーツ |
| 角川世界名事典 ラールス | | 角川 |
| 朝日選書 | | 朝日新聞社 |
-
- | | |
|------------------------|----------|
| 142: 狂気の価値 | 西丸四方 |
| 143: 歴史と現代 | 大塚久雄 |
| 144: 作家の証言-四畳半襖の下張裁判 | 丸谷オー編 |
| 145: 新版 差別と闘いつづけて | 朝田善之助 |
| 146: 写真芸術 | 金文魚嶺 |
| 149: 現代の資本主義 | 野口権一郎 |
| 150: 文豪 芸と人 | 安藤鶴夫 |
| 154: 教育勅語 | 山住正己 |
| 155: 地球を測る | 大塚道男 |
| 156: 言葉と人間 | 加藤周一 |
| 157: 朝鮮と日本のあいだ | 金・高崎(他) |
| 158: 生物医学の悪夢 | エッホ・ケスラー |
| 159: 童話とその周辺 | 山空 静 |
| 160: 悪者にされた虫たち | 興井一祐 |
| 161: 京の人 大阪の人 | 原田伴房 |
| 162: 中国の少数民族地帯をゆく | 鳥居龍藏 |
| 163: 中国的自由人の系譜 | 増井経夫 |
| 164: 日本民衆歌謡史考 | 園部三郎 |
| 165: 社会主義は闘に面するか光に面するか | 樽田民蔵 |

166: 近代の文学と文学者(上)	中村光夫	
167: " (下)	"	
169: 中国の緑の里	高杉一郎	
マイブック		講談社
続 わたしの知的生産の技術		"
こんな読銀あり!?	リー, スタン	"
1. 哲学 (心理学, 倫理学, 宗教, 等)		
ホモ・フウエレンス 論集 1, 2	柏原啓一	明文社
ギリシア思想とヘブライ思想	金子武蔵 編	"
プラグマティズムとはなににか	G. ケネディ 編	"
戦時代の哲学と倫理	サマウエル, ジョン	青木書店
実在主義叢書 10: サルトル	R. マアルベス	理想社
久松義一著作集 1.	久松義一	"
ハイデガー	スタイナー, G	岩波
創造性開発の研究	恩田 彰	恒星社厚生閣
人生の四季へ中年をいかに生きるか	レビンス, タニエル J.	講談社
ル教文学辞典	武石彰夫	東洋館
こけの一代みせてやれ	僧 勉閑	日新報道
我が身を殺せ	菅原義道	"
死んでもともし	"	"
考えること, 生きること	小原 信	日本放送出版
続々如是我聞	高橋美雄	白光真宏会
2. 歴史 (伝記, 地理, 等)		
ツタンカーメン秘話	ホーウエル, グトス	白水社
ヘディン探検旅行全集	ヘディン, フ	"
1/5: 探検家としてのわが生涯		
日本人とは何か - 民族の起源を求めて -	江上波夫(等)	小 渚 館
図説 日本文化の歴史 10: 江戸(下)		"
研究史 日本人権論	工藤雅樹	吉川弘文館
古代の技術	小林行雄	塙 書 房
図説 歴史散歩事典	人見奇雄(等)	山川出版社
日本近代史文献解説	佐治茂雄(等)	泉商書房
日本史用語辞典		柏 書 房
日本文化史 - 美術と歴史 -	武蔵 誠	大阪創元社

岩波講座 日本歴史

11: 近世 3

12: " 4

13: " 5

14: 近代 1

明治文化史 9: 音楽・演芸

太平洋戦争史

1: 満州事変

2: 日中戦争 I

3: " II

4: 太平洋戦争 I

5: " II

6: サンフランシスコ講和

中世文化の基調

広島 -歴史と文化-, -史蹟郷土史-

苦難の韓国民族史

中国古代理文様史 上, 下

ヨーロッパ文明 1900-1970 1

18/12年の雪

南部アフリカ

山田健太郎-回想と遺文-

角川日本地名大辞典 44: 大分県

日本城郭大系

1: 長野・山梨編

17: 長崎・佐賀編

現代のドイツ

失恋のすすめ

3. 社会科学(政治、法律、経済、社会、教育、民俗学等)

戦前日本の思想統制

美術法の諸相

日本統計年鑑 第30回 昭和55年

生活学論集 3: 食の生活と文化

青年期心理学

ホームルーム集団づくり

小宮聖彦

歴史学研究会

林辰三郎

威 錫忠

渡辺素舟

リヒトム, G

両角良秀

デビッド, B

山田健太郎(著)

佐木 博

藤原弘達

ミッセルリ, ドット, H.

田中英夫

仙崎 武(著)

西平正吉

岩 波

原 書 房

吉 木 書 店

東京大学出版会

講 談 社

新 教 出 版 社

雄 山 閣

み ず ず 書 房

筑 摩 書 房

岩 波

み ず ず 書 房

角 川

新 人 物 往 来 社

二 宮 書 店

日 報 報 道 出 版 部

日 本 評 論 社

東 京 大 学 出 版 会

日 本 統 計 研 究 会

ド ヲ ス 出 版

福 村 出 版

明 治 回 書

現代教育社会学講座

東京大学出版会

1: 現代教育の診断

3: 現代社会の人間形成

民俗学文献解説

宮田 登(等)

名著出版

日本民俗学文献目録

弘文堂

講座 日本の民族 5: 生業

河田武春

有精堂

文化の意味

ハンソン, F.A

京都法律文化村

広野市・長崎の原爆被害

岩波

住みよい町づくり

谷藤正三

森北出版

私の現代教育論

正村公宏

日本放送出版協会

心に残る授業 1976年版

明治図書刊

教育は誰のものか

黒田彦俊

教育史料出版会

教育の荒廃ともの再建

法律文化社

「落ちこぼし」とどうするか

駒林邦男

明治図書出版

おやじたまには聞けよオレの話

矢野勝男

日新報道

何のための教育か学校か

城戸梅太郎

情報センター出版局

青年期の進路選択

山村 健

有斐閣

ハト派の論理

世川 巖

PHP 研究所

アメリカ強制収容所

小平尚道

玉川大学出版部

原水爆禁止運動

今瓶誠二

朝新書

ソ連とイラ国

世界の働き社

企業犯罪

室伏哲郎

日本評論社

松下幸之助の入づくり

道津 孟

日本実業出版社

ジュネーブ日記

高橋麗子

日本労働協会

会社人間のカルテ

朝日新聞社

地球時代の国際状況

浅小路公考

TBSブリタニカ

勝る論理 負られる論理

室伏哲郎

PHH 研究所

赤いプロレタリア通り

ニーナ&ジャンケアマン

新評論

ナイルの新しい風

石原 濯

三修社

4 自然科学(数学、物理、化学、天文学、地学、生物学、医学等)

日本の科学技術100年史上

湯浅光朝

中央公論社

環境科学大事典

誠談社

ノーベル賞講演 物理学 8

化学結合と結合エネルギー

カンザリ, R.T

〃

科学の発展	朝永振一郎	みすず書房
応用数学	山中 伸	東 教 出 版
コンピュータ図学演習	小野内宣(等)	
線形代数法入門	及川哲雄	傾 書 店
電気分気学演習	柴山根一郎	サイエンス社
サイエンスライブラリ構築用辞書		
30: 土木工学における数値解析 流体解析編		
基礎物理	鈴木敏彦	文化書房博文社
初等力学	園田 久	広 川 書 店
超流体	ロンドン, フリッツ	講 談 社
1: 超伝導のマクロ理論		
2: 超流体ヘリウム		
化学の原理と論	林 太郎	栄 華 房
- 一般化学	長島弘三	"
化学概論 新版	林 太郎	"
化学要論	"	"
基礎化学選書 1. 元素と周期律	"	"
化学通論	吉岡甲子郎	"
巻末附録 化学実験 改訂版	金田一雄	"
物理化学実験法 増補版	飯島豊三郎	"
有機化学実験法	藤原孝太郎	"
基礎無機化学 新版	津田 栄	"
無機化学の理論と演習 改訂版	山口隆平	"
基礎生物学	佐藤重平	"
新しい化学	プライドL.T	培 風 館
化学概論 五訂版	石川清一	"
現代化学概説 改訂版	神谷 功	"
分析化学 改訂増補版	阿藤 肇	"
基本定量分析 改訂版	"	"
定量分析化学	テイ, R.A	"
実験定量分析化学	トルソワルド, E.	"
基礎有機化学	阿部芳郎	"
有機化学要論 6訂版	石川清一	"
化学用語辞典		技 報 社

化学モノグラフ 25: エネルギーとイントロヒー

宇宙の謎 天体写真集

地学概論 上・下 改訂新版

超伝導

電気磁気学

新電気磁気学 上・下

基礎電気磁気学

特許電気、電子工学制題演習シリーズ、

理学と工学のための量子力学入門

未知の宇宙

天文の計算教室

教師のための天文学

新天文学講座 1/2: 天文学の歴史

一般教養 地学

生物からみた日本の河川

性の器行

数学魔法帳

続

続続

おもしろい数学教室

続

おもしろい数学

続

おもしろい計算術

続

おもしろい数学遊び

おもしろい物理の教室

続

おもしろい身近な物理

続

おもしろい物理の実験

続

おもしろい物理

続

宮本正太郎

日高孝次(等)

日村物理実験

村上一郎

飯田修一

佐藤 洋(他)

ポール・H・A

リービッヒ, I.M.

有田 博

尾形 奇

近藤精造

森下郁子

マナー, ジョン

マクカドナー

ペレリマン

ヘフォドニバジ

ペレリマン

京都 化学同人

胡 倉

丸 善

昭 晃 堂

コロナ社

内田老鶴圃新社

地人 書館

恒星社厚生閣

建 帛 社

山 海 堂

京都 人文書院

東京 図書

物理のおもしろ雑	カリベリシテイン	東京図書
物理の学校	三浦基弘	〃
相対論の詩	ムリリバー	〃
化学の学校	マノロフ 他	〃
統	〃	〃
基礎課程 化学実験法	阿藤 質	培風館
身近な現象の化学	日本化学会 編	〃
一般教養 現代有機化学 改訂版	表辺健一	〃
私の化学-自然観の歩み	水島三郎	講談社
見て解く化学 I、II	中西啓二	市ヶ谷出版社
教養の生物学	越田 豊	培風館
一億半両人を救う道	岩尾祐二(等)	農文協
薬は毒だ「副作用」幼児から老人まで	田村豊彦	健康双書
奇形児はなぜ産まれてからでは居すぎる	〃	〃
共立化学ライブラリー 1: 液晶	立花太郎(等)	共立出版
化学の基礎	伊藤清夫	培風館
化学 三訂版	玉虫文一	〃
〃 産、常識のウリ	横山 泉(等)	青春出版社
5. 工学(土木、建築、機械、電気、造船、冶金、金属、化学工業等)	加地郁夫	朝倉
システム工学	マーチン、H.C	培風館
有限要素法の基礎と応用	ロビンソン、J	〃
投機者のためのマトリックス構造	〃	〃
太陽エネルギーの基礎と応用	〃	〃
総合エネルギー講座	エネルギー変換懇話会	〃
1: エネルギー-工学概論	〃	〃
2: エネルギー-基礎工学	〃	〃
3: エネルギー-資源工学	〃	〃
4: エネルギー-蓄積輸送工学	〃	〃
5: エネルギー-変換工学	〃	〃
6: エネルギー-利用工学	〃	〃
7: エネルギー-開採工学	〃	〃
8: エネルギー-材料工学	〃	〃
大学課程 応用数学	高木 龜一	〃

応用流体力学入門

工業熱力学

計量管理技術双書

1: 粒度 改訂

6: 液面

8: 密度および濃度 改訂

9: 圧力

11: 熱量 改訂

12: 材料試験機 改訂

14: 重量(上)

16: 温度

17: 湿度と水分

25: 動つりあり試験 改訂

26: 電気測定 改訂

31: 粒度

ひずみゲージ入門

基礎振動学

実用振動計算法

大学演習工業熱力学 三訂版

コンピュータ構造力学 2

ニューマックの数値計算法

破壊力学の基礎

初等力学

破壊力学と材料強度講座

2: き裂の弾性解析と応力拡大係数

6: 強度の統計的取扱

工業力学演習

材料力学概要 改訂版

材料強度論

構造力学演習-不確定係-

捷角法

鋼材の性能と利用法

金属材料強度試験便覧

材料試験法

ルミナリ、バーナド

飯沼一男

川田裕郎

小宮勤一

長輪徳蔵

榎本進一

佐休正治

渡辺修一

高橋照二

光 逸吉

明石 浅用

石橋誠一

川口 田村

玄 忠

松平 精

小堀与一

谷下市松

坂本正文

成岡昌夫

ノット, J.F.

森口繁一

東京大学出版会

学 献 社

コ ロ ナ 社

現代工学者

工学図書

達 華 房

学 隆 社

夜 報 堂

培 風 館

〃

〃

井上実之助

関谷 杜

金丸 競

吉田 博

小野 薫

菊地喜久男

日本材料学会

編 一

産業図書

京都いずみ書房

共立出版

森北出版

紀 元 社

海 文 堂

養 賢 堂

内田老鶴園新社

図面の見方 新訂版
 技術の歴史 増補 11
 日本の技術革新
 技術歴史のすべて
 技術レポートの書き方
 わかり易い土木建築 1/5 新訂版
 土木工学大系

- 7: 連続体の力学(III) 流体
- 9: 材料工学(I) 紙論
- 10: " (II) 基礎
- 20: ケーススタディ 国土計画
- 23: " 都市および農村計画

報告土木工学講座

- 1: 測量学
- 23: 岩盤力学

基礎土木工学講座

- 13: 土木材料
- 14: 土木施工法

土の物理学

土木地盤学 上, 下

新体系土木工学

- 22: 密度流の水利
- 29: 鋼筋コンクリートの製作
- 77: 砂防・地すべり・急傾斜地崩壊

システムと制御 増訂版 上, 下

土質基礎工学ライブラリー

- 16: 土質工学における化学の基礎と応用
- 16: 風化花崗岩とまご土の工学的性質とその応用
- 18: 土と基礎の沈下と変形の定数と予測

地すべり・崩壊・土石流

土質工学基礎叢書

- 1: 土の工学的分類とその利用
- 5: 土の応力伝播

カコー, ケリビルの土質力学

山中秀男

星野芳郎

Robert M. Woelfle 編

中島雄次

土木学会編

共立出版

筑摩書房

勁草書房

文芸春秋

朝倉

新聞社

朝倉

コロナ社

地盤物理研究会(編)

ガルバ, R

玉井信行

堀川浩甫

吉岡良朗

高橋安人

土質工学会編

森北出版

大明堂

技報堂

岩波

工機工学会

小橋登治(等)

鹿児出版会

カコー, A

技報堂

わかりやすいセメントとコンクリートの知識	山田 志保	鹿島出版会
コンクリート マニュアル 第8版		国民科学社
演習実践コンクリート工学	赤尾 理功	オーム社
演習実践測量学	新田 亮	理工図書
測量の誤差計算	岡崎 満	森北出版
コンピューター測量計算法	塚本正文	現代理工学出版
図説写真測量	西村 隆二	朝 倉
重力式擁壁の実用図表と計算例	高橋 守一	現代理工学出版
実用土質・基礎構造の設計と例解	柴田 道生	、
基礎構造物の実用設計法 前編・後編	足立 英(等)	、
道路橋の横断配実用計算法 前編・後編	高島 清生	、
土木計画学序説	内田 一 郎	森北出版
合流橋の理論と設計	島田 静雄	山 海 道
スラブ橋の設計	松崎 彬彦(等)	オーム社
シルド工法	矢野 信太郎	鹿島出版会
地山安定のアンカー工法	ハベニヒト、H	、
わかりやすい水の力学	佐賀 博美	、
樋門・樋管の設計と考案	中沢 武仁(等)	、
建築デザインの基本	ムア、ム W	、
オフィス空間	草森 伸一	、
日本のすまい、内と外	モース、エドワード S	、
タウンハウス	上田 篤(編)	、
建築は兵士ではない	鈴木 博之	、
実現されたユートピア	月尾 嘉男	、
個性ある都市	岩崎 峻介	、
建築の心理学	モラ、クリスド B	、
建築を教えるものと学ぶもの	岸野 英隆	、
水道施設設計指針・解説 1977		日本水道協会
下水道施設設計指針と解説		日本下水道協会
都市デザイン	黒川 紀章	紀伊国屋書店
街のイメージ構造	志水 英樹	技 報 堂
中国人の街づくり	郭 中端	相模書房
日本の建築(明治大正昭和) 9: ライトの遺産		三 省 堂
建築物の構造解析シリーズ 1. 2		技 報 堂

建築の地層

現代建築の再構築

〃 (続)

磯崎 新+篠山紀信建築行脚 1.5.10

日本の民家

2: 農家(2)

6: 町家(2)

建築の構造: その事故と災害

大学講座建築学構造編

2: 構造物の振動

建築構造計算シリーズ 4: 鉄筋コンクリート構造の設計

やさしい構造計算シリーズ 1~5

建築構造物の応力解析

建築構造力学演習 1, 2

建築材料要説

構造材料史要説

既存建物の耐力診断と対策

地震動のスペクトル解析入門

地震と耐震設計

GA Houses - 世界の住宅 - 7

最新機械工学講座 工業熱力学

新編機械工学講座

26: 機械振動

27: 情報処理

19: 機械設計

機械工学大系 10: 高速流動

機械工学基礎講座 14: 機械設計法

大学講座機械工学

3: 機械解析学

5: 材料力学

機構学

歯車の設計・製作

3: かさ歯車とウォームギヤ

4: 歯車の精度と性能

磯崎 新

神代雄一郎

西山卯三(等)

磯崎 新(等)

藤尾健三(等)

谷 資信(等)

日本建築学会(編)

谷 資信

田村 杰(編)

谷川恭雄

大崎順彦

大屋竹之

糸島寛典

勤 国 社

六 耀 社

学 習 研 究 社

丸 善

共 立 出 版

丸 善

理 工 図 書

日 本 建 築 学 会

オ - ム 社

産 業 図 書

森 北 出 版

鹿 島 出 版 会 社

〃

横 書 店

ADA HATA Tokyo

産 業 図 書

コ ロ ナ 社

朝 倉

共 立 出 版

バ ワ - 社

大 河 出 版

トライボロジ 基礎と応用 1	幸 書 房
基礎機械設計 (初級編) 改訂版	工 学 図 書
大学課程機械設計学	オ ー ム 社
機械の設計法	理 工 図 社
実用機械図	産 業 図 書
機械設計の基礎	日 新 出 版
高性能研削 2: 実際編	大 河 出 版
機械加工技術シリーズ	
2: 研削加工のドレッシング・ツルージング	誠 文 堂 新 光 社
3: 研削加工のトラブルと対策	
5: 実際と応用研削盤・研削機器とその使い方	
精密刻字学	峯 賢 堂
ボイラ構造規格による計算例集 新版	産 業 図 書
燃料噴射装置入門	山 海 堂
自動車用語辞典 改訂版	"
自動車用ディーゼル機関	"
冷凍の原理とその応用 改訂版	共 立 出 版
スーパーキャパシターション	策 根 出 版
真空技術実務誌本	オ ー ム 社
高速空気力学	コ ロ ナ 社
電気・電子工学大系	"
24: 結晶成長	
26: 半導体材料	
43: パターン認識	
変電工学 現場の手引 新訂 1-1, 2 2-1, 2	"
ラジオの原理と作り方 改訂	前 田 一 郎
基礎電子物性工学	川 辺 和 夫 (等)
電子工学進歩シリーズ 9: CRTスキャナ	"
電気工学ハンドブック	電 気 学 会 編
電気学会大学講座 超電導工学	電 気 学 会
電気技術者のための応用ベクトル解析	木 武 岡 弘
制御工学を学ぶ人のために	上 巻 致 孝
大学課程 電力発生工学	小 池 康 一 郎 編
現代電力工学	以 園 義 生

回路理論	Rohrer, Ronald A.	学 献 社
数値制御システム	山田正吉	"
理工系のための電気工学の基礎	入江富雄	養 賢 堂
系統の現場		朝日ソノラマ
回路理論演習	半沢正夫	森北出版
回路理論の基礎	秋田稔雄	日新出版
電気材料 改訂新版	大原儀作	東京電機大学出版局
保護継電技術	長谷良秀	"
標準電気機器構造 8		"
高周波の工学への応用	高橋徹次郎(等)	"
PLCの基本と応用	角田秀夫	"
原子力工学概論 上・下	山本賢三(等)	培 風 館
直流送電技術と系統問題	エネルギー	日本電気協会
最新スペクトラム拡散通信方式	Dixon, Robert C	日本技術経済センター
通信方式	コシ, B.P	マクミルラン学社
データ伝送と計算機ネットワーク	田村進一	大阪総文館
基礎情報理論	藤田玄一	昭 晃 堂
大学課程トランジスタ回路演習	石井正博	
ファクシミリ の基礎と応用	電子通信学会編	電子通信学会
デジタル信号処理	"	"
LSI技術	"	"
衛星通信工学	宮 裏一編	ラ ティ ス
マイクロ波理論入門	アウター, ハリー	好 学 社
マイクロ波工学	松浦定彦(等)	朝 倉
システム工学	加地郁夫	"
上級無線従事者用空中線系と電波伝搬 上・下		近代科学者
スピーカ、システム 上・下	山本武夫編	ラジオ技術者
センサ技術入門	高橋 清編	工業調査会
精解演習回路数学	中野義映	広 川 書 店
パルス回路	後藤公雄	産業図書
IC論理回路入門	西野 聡	日刊工業新聞社
マイクロコンピュータのシステムデザイン	柴宮茂吉	"
パルス回路の考え方	雨宮好文	"
デジタル信号処理	小沢慎治	実教出版

わかる半導体セミナー
マイコン用語辞典
スリーマイル原子炉事故の衝撃
原発事故の手引
ノーヒューズブレーカの原理と適用
リレープラクティス シリーズ
 1: 保護継電技術の常識
 6: 自家用電気設備の保護継電システム
 7: 保護継電システムの運用と試験
国家検定のための電気製図テキスト
マイクロコンピュータ活用事典 増補改訂
船の常識
図説 船舶工学
造船工学
船用機関概論
船用蒸気タービン講義 増補版
船舶工学の基礎
船用機関の自動制御 新訂版
標準金属工学講座 8: 鍛造
鉄鋼工学講座
 4: 鉄鋼の物性 1
 5: 2
生活学 3~5
溶接工学
大学課程 塑性学と塑性加工
塑性加工学
技術手帳
建築技術選書 21: 住宅の家具
鉄骨鉄筋コンクリート構造設計規程・同解説
特殊コンクリート造関係設計規程・同解説
機械設計演習 エンジン編
 工業力序編
建築工事の進め方-鉄筋コンクリート造-
わかりやすい土木地質学入門

伝田精一
高木仁三郎 編
小野 周
服部 謙
大崎好文
村中 康三
岡村正三
堀部 潔
上野喜一郎
高城 清
全国船舶技術研究会 編
川瀬好郎
土居政吉
面田信昭
葛西七郎郎
日本生活学会
佐藤邦彦
葉山敏太郎
日本材料学会
光藤俊夫
小熊 正
村石 満
山室 道彦
渡辺 甲子郎

C Q 出版
電気新聞社
社会思想社
ダイヤモンド社
電気書院
テフノ
海文堂
成山堂
コロナ社
桐 倉
ドメス出版
理工学社
オーム社
長 興 堂
土鏡工学会
学芸出版社
日本建築学会
パリー社
東京行出版社
土木工学会

住まいの設計入門心得帖	尾上孝一	オーム社
リレーハウス入門	木村建一	〃
リレー回路 実験と工作マニュアル	北川一雄	〃
サイリスタ	〃	〃
トランジスタ	〃	〃
続、マイコン	〃	〃
マイコン	〃	〃
建築構造の計画	松井源吾	朝 国 社
新建築構造 上-木構造 下-コンクリート造、鉄骨造、組構		学 芸
ボイラ構造規格		日本ボイラ協会
キミよ歩いて考えろ	中井 祐	ポアラ社
手抜き工事教えます	木田喜弘	日新報道
合成洗剤はもういらぬ		三 書 房
国際比較 日本の技術力	森谷正規	祥 伝 社
技術を考える/3章	中岡哲郎	日本評論社
図解メカニカルハンド	加藤一郎	工業調査会
金属エッチング技術	ペオギョウター	ア グ 不
裁かれる自動車	西村 肇	中公新書
マイカー族の事故防止学	箱崎純一	日新新書
電子セラミックス	アンリ、E.C	東京化学同人
6 産業 (農業、園芸、林業、水産業、商業、交通等)		
水産土木学	中村 元	工業時事通信社
砂防工学	野口陽一等	朝 倉
たまご革命	たまごの会 編	三 書 房
7 芸術 (彫刻、絵画、写真、工芸、音楽、演劇、体育等)		
日本古寺美術全集 4: 東大寺と新薬師寺、法華寺		集 英 社
ミケランジェロ	トルナイ、シャルルド	岩 波
西洋美術史	友部 直(等)	美術出版社
黄河の譜	生江義男	三 省 堂
日本の古典芸能 5: 茶・花・雀		平 凡 社
現代日本画家素描集		日本放送出版協会
11: 橋本明治, 12: 奥田元宗, 13: 今野忠一, 14: 松尾敏男, 15: 加藤東一		オーム社
ミュージックシンセサイザー入門	白砂昭一	〃
(鑑)	和田則秀 等	〃

最新名曲解説全集

音楽之友社

- 1: 交響曲 I
- 2: " II
- 3: " III
- 4: 管弦楽曲 I
- 5: " II
- 6: " III
- 7: " IV
- 8: 協奏曲 I
- 9: " II
- 10: " III
- 11: 室内楽曲 I
- 12: " II
- 18: 歌劇 I
- 19: " II
- 20: " III

近代絵画史 上・下
書の本 1: 書とは何か

高階秀爾 中公新書
双拳書房

8 語学

言語から見た民族と国家
ことばと人間
言語・人間・社会
読者の論理学
海外旅行新会話シリーズ 1、コミック英会話
ことばについて考える
なぜ外国語を学ぶか

田中克彦 岩波
ハヤカリ、S.I 経伊國屋
芳賀純 人間の科学社
ペレルマン, Ch. 理想社
川本茂雄 日本公通公社
西正保 講談社

ことばの世界
1: ことばの歴史としくみ
2: ことばのはたらき
3: 国際語と未来のことば

かたりべ文化

山本浩吉 冬樹社

9 文学

中世の文学
流民伝

庵本順三 筑摩
寺坂敏 河出書房新社

白水社 世界の文学

幻想の風景

三枚フグきの絵

唐詩歳時記

シュリーマンの生涯

時をきこむ

透明な季節

ぼくらの時代

暗いブティック通り

反骨

現代のユーモア文学

将軍 上・中・下巻

ジョンと永遠に

瑛明と綱邦 上・中・下巻

はるかなる山河に

岩波新書

137: 足利焼と谷

138: 指と耳で読む

139: リハビリテーション

140: 万葉群像

141: 乳幼児の世界

142: 戦後思想を考える

143: 徴兵制

144: 心とは何か

145: 日本語はどう変わるか

134: 英語の構造 下

135: 雑着とはどういふことか

136: 日本中世の民衆像—平和と職人—

全国大学図書館要覧 1980年版

日本書籍総目録 1980

現代用語の基礎知識 1981

日本の図書館

消防白書 昭和56年版

白水社

植木久行

ステファウイング

藤本 泉

梶 龍雄

栗本 薫

モテアノハハリッソ

夏堀正光

言行淳介(著)

クハベル、ジョーミス

ロビンソン、エリック

司馬遼太郎

明治書院

新潮社

誠談社

〃

〃

〃

実業之日本社

立風書房

TBSブリタニカ

主婦の友社

新潮社版

東京大学出版会

川原一之

本間一夫

砂原茂一

北山茂夫

野村庄吾

日高六郎

大江武夫

宮城音弥

柳田泉夫

中島文雄

井本、黄

網野善秀

日本学術振興会

日本書籍出版会

自由国民社版

日本図書館協会

大蔵省

消防庁編

三省堂選書

- | | |
|---------------------|------------|
| 1: 現代の日本語 | 柴田 祖父江, 徳川 |
| 2: 危機に立つ北洋漁業 | 青木 久 |
| 3: ダンテの未熟たち | 十種 堅 |
| 4: 近代日本と朝鮮 新版 | 中塚 明 |
| 5: 結婚・遺伝・生命 新版 | 児玉吉徳 |
| 6: 教汚米 | 西沢利康 |
| 7: 親鸞を語る | 松永 (等) |
| 8: ベトナム解放戦史 | 石山昭男 |
| 9: 日本語再発見 新版 | 池田摩耶子 |
| 10: 昔話は生きている 新版 | 梶田浩二 |
| 11: 天皇制教育 | 桑原作次 |
| 12: 女の教育100年 | 金森 (等) |
| 13: 種と進化 新版 | 河野昭一 |
| 14: 海よふたたび青く | 三好 寿 |
| 15: 日本美の原像 | 栗田 勇 |
| 16: アメリカ大統領 新版 | 阿部 春 |
| 17: 幼児のことばとおとな 新版 | 大久保 俊 |
| 18: 日本史の群像 | 黒羽清隆 |
| 19: 新・日本文法入門 新版 | 大久保忠刺 |
| 20: 近代スポーツ批判 新版 | 中村敏雄 |
| 21: 埋蔵文化財のはなし | 甘粕 健 |
| 22: ことばの風土 | 北見俊夫 |
| 23: 星-科学と神話 新版 | 小尾結爾 |
| 24: 学徒出陣 新版 | 安田 武 |
| 25: シンポジウム差別の精神史序説 | 井上 (等) |
| 26: 双頭のワジの国アルバニア | 秋岡家栄 |
| 27: 一歴史学者の歩み 新版 | 家永三郎 |
| 28: 日本近代科学の歩み 新版 | 村上陽一郎 |
| 29: 化学症 | 横瀬英三 |
| 30: 時間・空間・物質 新版 | 小野健一 |
| 31: 民主教育実践史 新版 | 海老原治善 |
| 32: 国民の医療史-医学と人権 新版 | 野村 拓 |
| 33: わか書春の映画史 | 田山力哉 |

34:ことばのカルテ 新版

35:物理学の思想と方法

36:舞踊への旅標

37:読者世界の英雄たち

38:中央アジア探検小史

39:伊能忠敬

40:浮世絵師

41:戦後民衆運動の歴史

42:日本とインド

43:出稼ご 新版

44:医者と患者のあいだ

45:一徳人の国語国字問題

46:明治化学の開拓者

47:人間として女性として 新版

48:菟州国

49:世界の大災害 新版

50:新文筆工学

51:文序理論ノート

52:日本の経済援助

53:日本人と中国人

54:ロシア文序への招待

55:未完の明治維新 新版

56:イギリスのこころ

57:共同研究 日本と朝鮮の古代史

58:迷礼と通路

59:一週一題 現代社会を考える

60:ことばの習俗 新版

吉田金彦

柳瀬雄男

石田雄生

江口孝夫

金子民雄

小島一仁

大戸吉吉

平田哲男(編)

大平孝平(編)

野冰純治

水野 肇

大久保忠利

塚原徳道

羽仁説子

岡部牧夫

金子史朗

津島・佐竹

梶野玲王

山本剛士

金山宣夫

原・江小 木村

田中 彰

シルクードP

吉田 晶(他)

武田 明

久我利男

外山滋雄

各 駅 停 車

1, 2:北海道 (合巻)

6:秋田県

7:山形県

15:神奈川県

17:富山県

19:福井県

21:長野県

27:京畿府

28:大阪府

31:松歌山県

34:岡山県

35:広島県

36:山口県

37:徳島県

38:香川県

39:愛媛県

40:高知県

41:福岡県

42:佐賀県

歴史新書 <日本史>

- | | |
|-------------------|---------|
| 25: 大宰府 | 念住靖彦 |
| 26: 防人と衛生 | 野田鶴志 |
| 27: 古代の美濃 | 野村忠夫 |
| 28: 今昔物語の世界 | 坂口 勲 |
| 29: 比叡山と高野山 | 泉山春樹 |
| 30: 日本の女性名(上) | 角田文衛 |
| 31: 孝養と盗賊 | 岡本堅次 |
| 58: 鎌倉仏教 | 田中久夫 |
| 59: 蒙古襲来 | 阿部征憲 |
| 60: 建武政権 | 森 茂徳 |
| 96: 安土桃山文化 | 今泉淑夫 |
| 97: 城と城下町 | 小和田哲男 |
| 98: 近世上方の民衆 | 小林 茂 |
| 99: 近世の北海道 | 海保碩夫 |
| 100: 加賀百万石 | 田中喜男 |
| 101: 奥原の乱 | 植本増男 |
| 102: アイヌ考古学 | 宇田川 洋 |
| 105: 近世の村 | 木村 慶 |
| 106: 近江商人 | 渡辺守順 |
| 127: 三菱財閥史 大正・昭和編 | 三島康雄 |
| 133: 日本政党史 | 山本四郎 |
| 138: 大本 營 | 森松俊夫 |
| 139: 円の歴史 | 荒木信義 |
| 140: 日本陸軍史 | 生田 惇 |
| 141: 日本金融制度発達史 | 後藤新一 |
| 142: 日本海軍史 | 外山三郎 |
| 143: 日本資本主義の群像 | 梶井義雄 |
| 144: 明治維新と領土問題 | 安岡昭男 |
| 145: 三池炭鉱史 | 上妻幸英 |
| 179: 津軽の民間信仰 | 小館史三 |
| 180: 罪 と 罰 | 笠原一男(編) |
| 181: 日蓮宗の歴史 | 中尾 鬼 |

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 301: 東京ラウンド | 高 信彦 |
| 302: 80年代の欧州共同体(EEC) | 鎌守幹雄 |
| 303: PLOと中東和平 | 坂井定雄 |
| 304: 財形制度と勤労者福祉 | 榎本逸朗 |
| 305: 80年代日本の統合安全保障 | 現代総合科学研究所 |
| 306: 戦後西独経済とマルク | フォルマール, ヨハネ |
| 307: NASA-アメリカの宇宙開発政策 | 内田勇夫 |
| 308: 鄧小平と中国近代化 | 伊藤 正 |
| 309: EMS(欧州通貨制度) | 内藤純一 |
| 310: サッチャー | 酒石隆二 |
| 311: 日本の中東外交 | 室利尚一 |
| 312: 国民年金 | 横山和彦 |
| 313: 華 国 鋒 | 中島 宏 |
| 314: 空母と機動艦隊 | 軍事学セミナー |
| 315: 武装攻撃ヘリコプター | " |
| 316: アメリカ合衆国大統領の戦争権限 | 宮脇宏生 |
| 317: ソ連の国家構造 | 木村明生 |
| 318: 日本弁護士連合会 | 川端初治 |
| 319: ソ連の企業経営 | 松島 明 |
| 320: 戦 車 | 軍事学セミナー |
| 321: 日米半導体戦争 | 大道泰則 |
| 323: 大統領補佐官 | 赤田一 謙 |
| 324: 遺産相続 | 苗田芳賀 |